

## おわりに

もし、民主主義に思想があるならば、それは人権です。社会に「人権と呼ぶべきものがなければおかしいぞ」と、人々に思わせたのは権力です。しかし、庶民が「なければおかしいぞ」と思わねば、人権は発見されなかったのです。

支配者の横暴を前にして、「あれじゃ、可哀そうだ。見てられない」「これは我慢ならない。腹が立つ」と思い、そして、「何とかできないものか」と地団駄を踏んだ時に、人々は「権力」に対抗する「力」としての「人権」を発見したのだと思います。そうであるならば、相互の思いやりや、「人間」を大切にしたいという思いが人権の存在を想定させたと言えます。人権の発見は、助け合う意思が成せた業なのです。

以上のように考え、東洋的な言い方をすれば、人権は慈悲という言葉で言い換えるのが似つかわしいでしょう。仏が衆生（凡夫）に向ける慈悲ですが、人々が相互に与え合い、助け合うことも慈悲に属します。人権の思想は、助け合いという日常の行動を形作る慈しみなのです。

ということは、民主主義は相互への慈悲がなければ機能しません。「己さえよければいい」は民主主義に反します。

今年2019年2月24日の辺野古基地建設の是非を問う沖縄県民投票は、建設反対が多数を占めました。この民意を尊重するかどうかは民主主義の試金石です。今後、日本人の民主主義が問われます。

安倍首相は、県民投票の結果にかかわらず、建設を進めると述べています。私たちはこのような首相を支持して良いのでしょうか。良い訳がありません。彼を支持しながら、「私は民主主義者だ」とは、とても言えません。もちろん、安倍首相も民主主義者と自らを呼べるはずがありません。彼は「見せ掛け」の権化です。

この「見せ掛け」を彼はこぼれんばかりに抱えています。昨年までにスーダン日報問題・森友加計問題など多数。今年に入り、毎月勤労統計操作問題など。見せ掛けゆえに、国際的信用も失いました。そもそも、アベノミクスも「積極的平和主義」も見せ掛けです。

今後も安倍内閣の支持率が30%を割らないならば、「日本人は正常な判断力を失った」と言われても仕方ありません。そう言わざるを得ません。

安倍首相がトランプ大統領をノーベル平和賞に推薦したとのこと。トランプ大統領のどこが平和なのでしょう。彼は平和や融和ではなく、戦争と分断が大好きな人物です。その大統領にノーベル平和賞を推薦するとは…。一日も早い安倍首相退陣を望みます。

ここまで、読んでいただきありがとうございました。もうお分かりのように、安倍政権への不安と怒りが書かせた本です。

読んでいただけたのは、皆様の我慢強さであります。それ以上の根気で出版にまでご努力をいただいた二人の方がおられます。あけび書房の久保則之さん、清水まゆみさんに御礼申し上げます。

2019年5月3日 憲法記念日に

八角 宗林